

全体の概要

本校正答率は、県の正答率とほぼ同じである。しかし、到達度分布では、「十分達成」の生徒の割合が、県よりも低く、「おおむね達成」が県よりも高い。「要努力」の生徒の割合はほぼ同じである。つまり、学力向上の余地という点からすると、まだまだ伸長を期さなければならない生徒が多いということである。なお、意識調査における「国語の勉強は好きだ」に「当てはまらない」と答えた生徒は6.3%で、県の11.5%を大きく下回っている。ぜひ、学力向上の手立てにより、更に国語の苦手な生徒を少なくしたい。

分析結果・自校の課題		改善に向けた具体的取組	
話すこと・聞くこと	<p>本校正答率は、県の正答率とほぼ同じである。「話すこと・聞くこと」に係る問題は、話し合いにおける発言者と司会者のやりとりを文章化し、その姿勢や発言内容を記号で答える問題である。最後の設問のみ80字の条件作文の形式で自分の意見をまとめる問題となっている。この条件作文形式の問題の正答率のみが、極端に低くなっている。</p>	<p>国語の授業では、話し合い形式の学習は日常的に行われている。今後は、その中で、発表内容的確さを確認したり、司会の在り方、運営の方法を再確認したりする学習を繰り返す、「話す力、話し合いを運営する力」のより一層の伸長を図りたい。なお、そのような力をテストにおいて表現するにあたり、最後は文字化の必要が生じる。「書く力」と合わせた指導が不可欠である。</p>	
書くこと	<p>本校正答率は、県の正答率をやや下回っている。「書くこと」に係る問題は、情報カードの作成と新聞記事の下書きについて、その内容や関連を記号や抜き出しで答える問題である。最後に、アンケート結果のグラフを読み取って40字でまとめる条件作文が出題されている。ここでも、この条件作文形式の問題の正答率が一番低くなっている。</p>	<p>条件作文形式の各問題の正答率は低いが、無回答の生徒は少ない。また、誤答となったものの大半は、作文としては成立している。つまり、条件作文の誤答の原因のほとんどが、条件を守ることが出来ていないためである。現在、本校では、国語の「すすくテスト」において、自作の条件作文問題に取り組ませている。採点・添削には時間と労力がかかるが、継続して取り組んでいく。</p>	
読むこと	<p>本校正答率は、県の正答率をやや下回っている。「読むこと」に係る問題は小説及び説明文の読解を問う問題である。小説については記号で答える問題であり、正答率は高いが、説明文については、2問中1問が、自分の意見を条件に合わせて書く問題であり、やはり正答率は低い。</p>	<p>今回のテストでは、説明的文章の読解力に課題が見られたが、この傾向は普段から見られるものである。説明的文章や論説文などは、日常的には触れる機会が少ないので、意図的に授業等で親しませ、著者の論理的思考を読み取る力を高めたい。なお、そのような力をテストにおいて表現するにあたり、最後は、やはり文字化の必要が生じる。「書く力」と合わせた指導を取り入れていく。</p>	
言語事項	<p>本校正答率は、県の正答率をやや上回っている。「言語事項」に係る問題は、漢字の読み書き、四字熟語の組み立て、同訓異字、ことわざ、敬語についての問題が出題されている。「養蚕」の読み、「券」と「成績」の書き取りの正答率が低かった。他の問題の正答率はおおむね良好であった。</p>	<p>言語に関わる知識・理解・技能については、内容が多岐にわたっており、普段からの言葉に対する関心と意欲が大切である。特に漢字の習得には地道な努力が欠かせない。宿題と漢字テストを連動させるなど、生徒の意欲を喚起する工夫を取り入れていく。また、随時、振り返りの学習や小テストを実施することにより、言語事項に関する学習内容の恒久的な定着を図っていく。</p>	

全体の概要

県の正答率と比べると大きく上回る結果である。また、観点別においても「見方や考え方」「技能」「知識・理解」の3つの観点、全てにおいて大きく上回っている。生活・学習状況においても、「数学の学習は好きだ」という問いに対して80%の生徒が「当てはまる、どちらかというとき当てはまる」と答えている。また、「数学の授業で学習したことは、将来役に立つか」という問いに98%の生徒が「当てはまる、どちらかというとき当てはまる」と答えており、数学に対してとても好意的な気持ちをもっている生徒が多い。

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取組
見 方 や 考 え 方	「見方や考え方」の観点では、県の正答率と比べると大きく上回っている。8問ある全てで県正答率を上回っている。その中であえて課題をあげると「示された情報を基に、被除数、除数、商及び余りの関係を捉え、最大数を答える」という問いが、県の正答率と大きな差がなかった。	「見方や考え方」は、思考力を問う問題であるため難易度が高い問題が多い。長い文章を読みながら問題解決に必要な情報を取り出すことが重要になってくる。授業において必要な情報に○で囲ませたり、下線を引かせたりしながら丁寧に取扱いしていく。また、答えを求めるまでの過程に比重をおいたグループ活動などを取り入れた授業を行っていく。
技 能	「技能」の観点では、県の正答率と比べると大きく上回っている。その中でも「 x や y を用いて数量関係を式に表す」という問いは正答率100%という高さである。13問中、県正答率に届かなかったのは、1問である。その問いは「表から数量を読み取り、比例の関係を式に表すことができる」という問いである。	「技能」に関わる問題としては、計算問題が多い。7年生の学習内容としては「数と式」の領域が多いため、授業の最初に計算小テストを行い、単元が終わったところで中テストを繰り返し行っていく。また、週末課題として計算プリントに取り組みさせていく。「数量関係」の授業においてはワークシートなどを使って丁寧に取扱いしていく。
知 識 ・ 理 解	「知識・理解」の観点では、県の正答率と比べると大きく上回っている。7問ある全てで県正答率を上回っている。その中であえて課題をあげると「対称な図形は何度回転するともとの形にぴったり重なるのか角度を答える」という問いが、県の正答率と大きな差がなかった。	用語や基本となる知識の習得については、繰り返し復習させる必要がある。授業では教科書に下線を引かせるなど丁寧に取扱い、定期テストなどに意識して出題していくことで生徒に理解させていく。

全体の概要

全体的に県平均を上回っている項目が多い。

①数値が特に高かった項目

	項目	本校	県
8	土曜日は何をしてお過ごしが多いですか。学校の部活動に参加している。	47.9	15.5
9	日曜日は何をしてお過ごしが多いですか。学校の部活動に参加している。	29.2	9.6
22	数学の勉強は好きだ。	56.3	35.8
44	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。	72.9	47.6
47	理科の授業で学習したところを普段の生活に生かさないか考えたり、学習したことが生かされているものを、身の回りから見つけたりしている。	56.3	31.8

分析

小学校からの取り組みもあり、理科・数学において生徒の関心・意欲が高いことが分かる。スポーツに対する興味・関心が高い生徒が多いため、運動部活動を中心に部活動の加入率が高い。また、社会体育でも活動している生徒も多い。

取り組み

理科・数学のみならず、他の教科においても生徒の学習意欲を高めるような手立てが必要になる。運動の好き嫌いでの二極化が進むことも予測されるため、引き続き、部活動を中心に生徒たちが活動できるように支援したい。

②数値が特に低かった項目

	項目	本校	県
35	読書が好きだ	31.3	44.5
40	社会の授業で自分が考えたことや調べたことを、新聞のような形でノートや模造紙(広用紙)にまとめることは楽しいと思う。	31.3	38.7
56	朝食を毎日食べている。	72.9	85.3
64	新聞やテレビ、インターネットのニュースを呼んだり見たりしている。	29.2	38.2

分析

朝読書の習慣はあるが、読書に対する好き嫌いに差が見られる。また、食に対する意識が低い。情報の活用、共有をうまくできない生徒も多い。

取り組み

生徒一人一人が自分の興味・関心に合う本を採択するように働きかける。家庭教育に関する意欲の喚起を続ける。物事を深く学ぶことや関連付けて学習できるような習慣を身につける。